

岩手県から北海道へ

氏名 井上 淳子

岩手県奥州市立水沢南小学校 → 北海道北斗市立浜分小学校

(期間：令和2年4月1日～令和4年3月31日)

1 岩手県の教育

- 岩手県では、『知・徳・体』を総合的に兼ね備えた、社会を創造する能力を育てる『人間形成』を目指している。これを実現するために、

☆いわての授業づくりの3つの視点（①見通し②課題解決③振り返り）

☆温かい人間関係と学習規律を基盤とした学習集団の確立

を土台とした、「確かな学力育成プロジェクト」を全県で進めている。

その土台のもと、授業、家庭学習、諸調査の分析、カリキュラム・マネジメントについて各学校で組織的な対応と取り組みを行うことで、「主体的・対話的で深い学び」の実現を図っている。

育成すべき資質・能力の3つの柱（以下の3つ）は、

☆学びを人生や社会に生かそうとする力

☆生きて働く力

☆未知の状況にも対応できる力

岩手県が目指す教育に共通しており、これらの視点を大切に捉え、確かな学力を育成するプロジェクトが推奨されている。

2 学校や地域の特色ある教育活動

・奥州市立水沢南小学校では、開校当時から受け継がれている「鼓笛」を教育の一環として設けている。高学年は「伝統を引き継ぎ、受け継いでいく」ことに誇りをもって取り組んでいる。鼓笛引継ぎ式では、下学年は鼓笛へのあこがれと高学年への尊敬の念をもちながら参加し、その気持ちと共に次の世代へと大切に引き継がれていく様子が見られる。



【水沢南小学校の学力向上方策】

○「かかわり」ながら、学びを深める児童の育成

・「いわての授業づくり3つの視点」にのっとり、授業を3つの段階に分け「課題把握の工夫」「交流の工夫」「振り返りの工夫」を行っている。特に課題解決時に行う児童同士の交流では、「3つのきく（聞く・聴く・訊く）」を設定している。「きく」ことで「かかわりあう」学習が成立していく。「きく」段階が進むごとに、児童の思考はより

高次の物へと変容し、深い学びがなされていく。これらのことを全職員が認識し、児童同士が関わり合いながら授業を構築していくよう取り組んでいる。

○音読の定着

- ・全学年が毎日の家庭学習の一つとして、音読を行っている。学年ごとに音読カードを作成し、学習している内容や予習内容等、教科を問わず声に出して読むことを行っている。各家庭にも周知し、学校と家庭が一緒に取り組んでいる。

○繰り返し学習等の計画的・継続的な実施

- ・曜日ごとに朝学習の内容を決め、計画的に取り組んでいる。
(朝読書、視写、漢字、計算)
- ・毎学期末に「漢字・計算大会」を実施し、基礎学力の定着に努めている。

○学力テストの分析・対策

- ・学力定着度状況調査や標準学力検査等では、PDCAサイクルを大切にしている。児童がつまづきやすい傾向の問題を作成して繰り返し取り組んだり、検査後には落ち込みが見られる内容を分析して再度問題に挑戦したりして、学力の定着を図っている。
- ・教師自身が児童と同じ問題に取り組むことで、現代求められている傾向に気づき、授業づくりに生かすことができる。

3 私が取り組んできた実践

【学力向上の取り組み】

○3つの「きく」を生かした対話的な授業づくり

- ・対教師の授業ではなく、児童同士の関わりを大切にした授業づくりに取り組んだ。一人でははっきりと分からなかったことも、言葉にして表現することで、思考が整理されていく。新しい考えが生まれたり、自信が付いたりするなど児童のプラスに働くことが多くあった。

○家庭学習の充実

- ・自主学習ノートの名前を伏せて掲示し、「がんばりコンクール」と称した評価を児童相互で行った。学習が身に付き取り組み方を児童自身で考えるきっかけを作った。

【生活の基盤作り】

○相手を意識したあいさつの取り組み

- ・児童会担当時には、挨拶カードを作成し、期間を決めて朝児童と共に玄関外に立って挨拶活動を行った。挨拶が良かった学年やもう少し頑張れそうな点などを給食時に放送を流し、全校で確認した。また、執行部だけではなく、各学年にも協力を依頼し、曜日ごとに学年を決めて玄関や廊下になって挨拶運動を行った。
- ・教師の顔写真と名前を廊下に掲示し、「〇〇先生、おはようございます」と名前を付けて行う挨拶活動を行った。挨拶をされた方も気持ちが良い。

○時間いっぱい活動する黙働

- ・清掃中の会話は必要最小限にし、集中して時間いっぱい清掃活動を行った。全校が黙働を意識して取り組んでいるため、静かに落ち着いた時間が流れていく。